

# 化学物質管理

## Chemical Substances Management

製薬業界は環境への負荷が比較的少ない産業であると言われていますが、人の健康を守る医薬品を研究開発し生産するために、多種類の化学物質を使用しています。これらの化学物質が環境中に排出された場合、人の健康や生態系に影響を及ぼす可能性が疑われるものもあります。

したがって、このような化学物質の環境中への排出をできるだけ減らすことが製薬業界として重要と考えています。そのために、自主的な化学物質の管理の促進が有効と考え積極的に推進しています。

### 製薬協では

1997年度から自主的なPRTR調査活動を開始し、取り扱いまたは製造する化学物質について、環境への排出量・移動量を調査し、その結果を1999年から本報告書に記載しています。

また2002年度からPRTR法により事業者の排出量等の国への報告が義務付けられ、これらのデータは公表されています。ここでは製薬協会会員会社全体のデータを纏めて概説します。

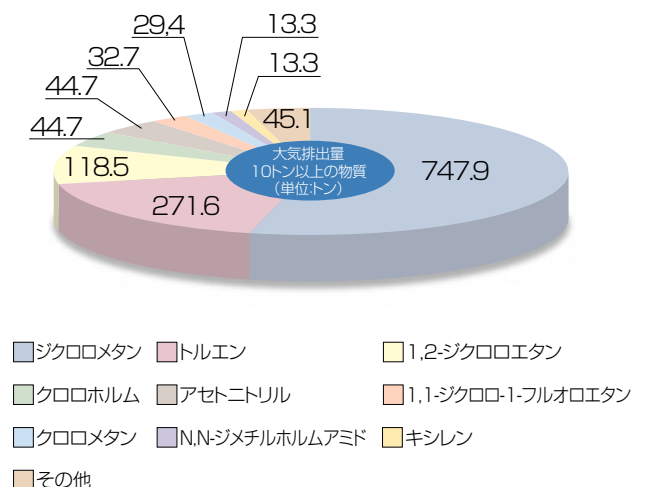
## ■ 目標

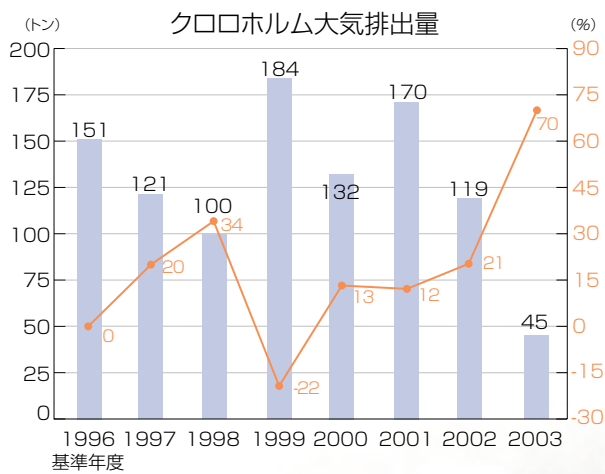
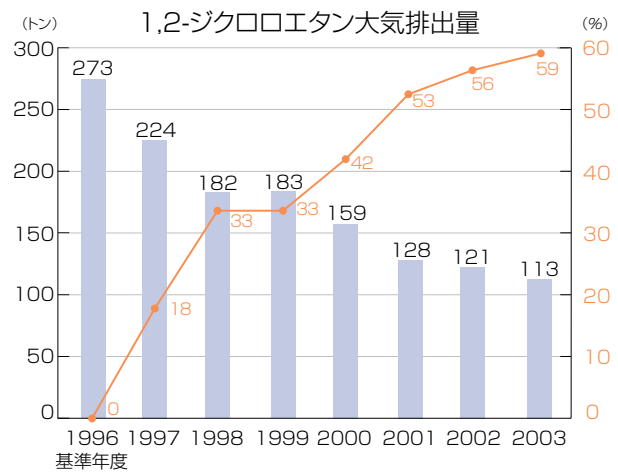
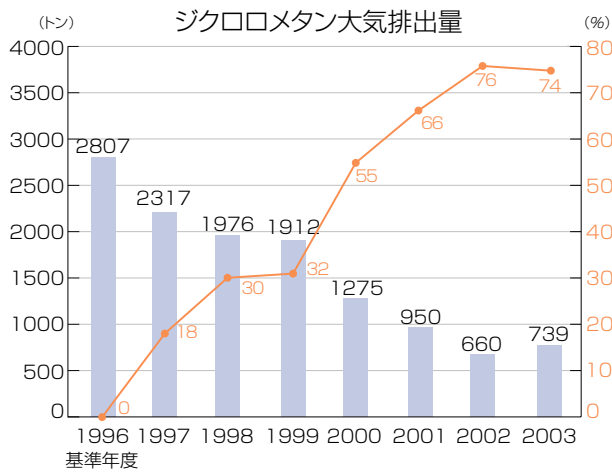
**ジクロロメタン、1, 2-ジクロロエタン、クロロホルムの大気排出量を、各々、2003年までに基準年度の60%、50%、30%を削減する。その他の物質についても、計画を策定し排出抑制に努める。**

2003年度の調査参加企業75社における第1種指定化学物質353物質（ダイオキシン類を除く）の年間取扱量は、21,978トン、大気への排出は1,361トン、水域への排出は50トンでした。土壌への排出はありませんでした。大気への排出の多い物質は、ジクロロメタン、トルエン、1, 2-ジクロロエタン、クロロホルム、アセトニトリルの順でした。

これらの内、有機塩素系化学物質につきましては、2001年に排出量削減自主管理計画（第2期3カ年計画）を策定し、削減目標達成に向け取組んで参りました。その結果、目標を達成することができました。ジクロロメタンにつきましては削減目標60%に対し74%、1, 2-ジクロロエタンにつきましては、削減目標50%に対し59%、クロロホルムにつきましては、削減目標30%に対し70%と大幅に目標を達成することができました。その他のホルムアルデヒド、ベンゼン、

テトラクロロエチレン、アクリロニトリルについても、環境への排出抑制に努め、基準年度（1999年度）の約50%以上の削減ができました。





■実績 ●削減率

## TOPICS

リスクコミュニケーション・リスクアセスメント研究会では、土壌汚染対応およびPRTR対応のロールプレイを実施。和気藹々とした雰囲気の中で種々のケースを取り上げ、活発な議論を展開しています。

